◆佐賀農業賞最優秀賞受賞者の取組概要◆

〇先進的農業経営者の部

株式会社 基里ＯＫファーム 代表取締役 上種　正博　氏

（鳥栖市　土地利用型大規模経営（米、麦、大豆、露地野菜））

- 佐賀県農業大学校を卒業し、ＪＡ職員として 18 年間、三神地区の営農指導を担当された後、高齢化や担い手不足で悩む地元鳥栖市基里地区の農業発展を担うべく、平成 25 年に仲間とともに株式会社基里 OK ファームを設立された。
- 当初は農地も事務所も持たないゼロからのスタートで、地元の営農組合や機械利用組合等の協力のもと、農地や営農機械を借り受け営農をスタートされた。その後、地域や取引先からの信頼確保により順調に農地や生産量を拡大され、現在の経営面積は 35ha となり、露地園芸を中心とした大規模経営を実現されている。
- 地元の機械利用組合や集落営農組織への役員等を務め、協力体制を構築されるとともに、学生の企業体験受け入れ、福祉施設入所者の収穫体験など社会貢献に努められている。
- ビジョンの明確さ、生産から販売までの企業的大規模経営、地域貢献の観点で、本県が掲げる「稼げる農業経営」として大変参考となる事例であり、更なる活躍が期待される。

〇若い農業経営者の部

江川　玄徳・紗和子　氏（唐津氏　施設・露地カンキツ）

- 玄徳氏は平成 20 年に親元に就農された。当時は「ハウス不知火」123ａが中心で、反収は地域平均と比べて低かった。そこで、遊休ハウス 37ａを「ハウスみかん」や「ハウス中晩柑」に改植するとともに、篤農家等に学び、栽培技術を習得したことで、徐々に収量が伸び、平成 25 年には地域のトップレベルとなった。それに伴い、先代から引き継いだ施設の１億円を超える借入金を８年で完済、規模拡大にも取り組み、令和４年には 284ａまで拡大した。
- 令和５年に法人化後は、労働力の安定的な確保のため、土日・祝日を休みとし、シャワー室やトイレの整備、サマータイム制の導入を行うなど、従業員の働きやすい環境整備を行われている。現在は、令和 15 年までに販売金額５億円を目指すという経営目標を掲げている。
- ＪＡからつ果樹青年部長等を務め、みかんの消費拡大や地域の生産技術向上に携われている。
- 高い目標に向かって着実に努力を重ねることで、地域での経営モデルを体現されており、県を挙げて展開している「さが園芸 888 運動」のモデルとなる経営体である。

〇地域農業活性化の部　（生産性向上部門）

農事組合法人 西梅野ファーム　氏（武雄市　米、麦、大豆、WCS、露地野菜）

- 将来、農業情勢が一段と厳しくなっても地域農業が維持できる生産体制を構築するため、個別経営から協業経営へ転換し、法人組織を設立している。全戸の声を反映した「実践計画書」は、毎月１回開催される全体会議で協議し、四半期ごとの進捗管理がなされている。
- 構成員に対して、協業経営の意識を定着させるとともに、営農アプリ等の導入による記帳作業の効率化や賃金を月払いにする等により、営農活動への士気向上につなげている。役員の育成に当たっては、若い世代を役員のメンバーに入れて、得意分野を活かせるような配慮をするとともに「青年塾」を開講し、次世代が地域営農に参加しやすい体制を構築されている。
- 休耕地に露地野菜の新規導入を図り、女性が輝き発言できる機会を設け、所得向上につなげている。
- これらの成果は、中山間地域における組織育成の模範となり、更なる発展と他地域への波及とが大いに期待されている。地域に根付き地域農業を守る組織として、大いに貢献を果たしていることが高く評価された。